

校舎改革は県が実施することと、同窓会や実行委員会が行える事業でないことは自明の理ですが、100周年の大

周年記念事業準備委員会が発足しました。会の構成は顧問、員会委員長・事務局の55名から成っています。

100周年に相応しい事業として何が出来るのか、様々な角度から検討し、同窓会としての方向を出すのが準備委員会の主な仕事です。

母校にとっての課題は80年の頃から意識されていた懸案で、今や悲願と言つてよい課題であり、それは校舎改革の実現です。

昨年9月29日、創立100周年記念事業準備委員会が発足しました。会の構成は顧問、三役・常任理事・支会長・委員会委員長・事務局の55名から成っています。

准備委員会には、9月11日に長野県教育委員会へ出向いて提出した要望書が提示され、そのときの県の対応内容が会長から説明されました。

委員会としては、要望書に示した校舎改革の実現に取り組むことを確認しました。

県の財政事情や少子化による学校再編成事業を考えると、早期実現は難しいと思われる

きな節目に、最大の課題が手つかずのまま持ち越されない

## 創立100周年 記念事業計画に向けて 準備委員会が発足

その他の事業についてはこれまでの委員会の検討を待つことになります。

委員会の検討に会員の皆さんのが希望が反映されるようになる生徒減少に対応する高校の統合再編が進行中で、今は取り組んでいる②少子化による見極めがつかない」と説明、現段階での改築には明確な回答を避けた。しかし「老朽化対策に手を回せるようになれば、伊那北は早い段階で取り組むべき施設と思う」と述べ要請に理解を示した。

伊那北高校は、昭和32年5月の火災で大半が焼失。翌33年10月周年を好機として、同窓会さらには実行委員会の意志結集を図り事業推進に努めてまいりたいものです。

### 伊那北校舎の 早期改築を要請 北原会長ら県教育長に



一方、高校の再編、統合は第一次はほぼ手を付けられたものの、第二次計画の必要性が浮上していく、伊那北を含めた上伊那郡内の再編も検討される可能性がある。

北原会長らは、2020年に母校が創立百周年を迎えるのを機に「遅くともそれまでに改築してほしい」と重ねて要請した。

要望書は①小体育館と音楽室・調理室の改築②耐震基準

などを次々に建設。しかし狭い敷地にその都度必要に応じて建てたため、長期的視野に立った教育環境構想にはほど遠く、各建物の連絡も悪く、教室の中に柱が林立するなど使い勝手が極めて良くない。

音楽・調理室はプレハブで、駐車場も数台分しかない。耐震工事は順次進行中だが、校長室や事務室、研究室が入る南棟はまだ着手されていない。南信地方だけ見ても諏訪清陵、飯田高校などに比べても老朽化が激しく、見すぼららしい状態のままだ。

**発行**  
伊那北高等学校同窓会  
TEL 0265(72)7312  
FAX 0265(76)5585  
URL <http://kaorugaoka.jp/>

**印刷** (有)マスマタ印刷

# 伊那北高校同窓会会報

に満たない南校舎(管理棟)と共に古い中校舎改築③南、中校舎を合体して4階建校舎を新築、そこに大講義室、理科教室、音楽・調理室を統合する一と具体的な改築構想を盛り込んだ。

これに対し伊藤教育長は①県下高校全体の耐震工事を平成27年度末を目標に最優先で取り組んでいる②少子化による生徒減少に対応する高校の統合再編が進行中で、今はその見極めがつかない」と説明、現段階での改築には明確な回答を避けた。しかし「老朽化対策に手を回せるようになれば、伊那北は早い段階で取り組むべき施設と思う」と述べ要請に理解を示した。

伊那北高校は、昭和32年5月の火災で大半が焼失。翌33年10月周年を好機として、同窓会さらには実行委員会の意志結集を図り事業推進に努めてまいりたいものです。